White Paper on Regional Collaboration and Social Contribution

地域連携・社会貢献白書

2025



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

共愛学園前橋国際大学
KYOAI GAKUEN UNIVERSITY

地域と大学が学び合い、高め合う関係を築く

共愛学園前橋国際大学 学長　大森 昭生



共愛学園前橋国際大学は「地域とともに歩む大学」として、教育・研究のすべてを通じて地域との関係を深めてまいりました。この地域との関係性を、本学では「地学一体」と称しています。地域（地）と大学（学）が分かちがたく結びつき、共に未来を創っていく姿を表す言葉です。決して一方向の関係性ではありません。

同時に、地域と大学の真ん中に学生がおり、学びがあることも「地学一体」が表す特徴です。学生が地域に学び、地域の皆様が学生を育てて下さる。その双方向の関係性こそが、本学の大きな特色であり、私たちが大切にしてきた想いです。

近年は、自治体や企業、NPO、学校等との協働による実践的なプロジェクトが広がり、地域課題の解決に学生と教職員が共に取り組んでいます。現場での挑戦と対話を通じて、学生たちは知識を実践へと結びつけ、自らの成長と地域への貢献を実感しています。こうした営みは、単なる地域貢献にとどまらず、地域と大学が学び合い、高め合う関係を築くものです。

もちろん、地域の皆さまの温かいご理解と力強いご支援があってこそ、このような教育・研究活動は成り立っています。日頃より本学の取り組みにご協力いただいているすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

これからも本学は、地域社会の一員として責任を果たしながら、「地学一体」の理念のもと、持続可能で活力ある地域づくりと、地域の未来を切り拓く人材の育成に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地域に根ざし、共に未来を育む「共愛・共生」の実践

地域共生研究センター長　野口 華世



共愛学園前橋国際大学は、「共愛・共生」の理念と「グローカル」の視点のもと、人と人、大学と地域を結ぶ多様な取り組みを重ねてまいりました。

今年度の白書では、前年度から育んできた地域との絆を一層深め、より重層的に進化させた活動の成果をまとめております。学生が地域に飛び込み課題解決に挑む実践的学びや、地域の歴史や文化遺産を市民とともに再発見する学習機会、文化・芸術や伝統に触れる協働事業、そして教員が地域へ赴き専門の知識を届ける出張講座や各種体験型プログラムなど、教育・研究・社会貢献のあらゆる場面で地域に根ざした共創が広がっています。

変化の激しい現代社会において、共に生き、未来の世代に責任を持つ視点はますます不可欠なものとなっています。本白書がこれまでの取り組みを振り返り、本学の実践を広く発信するだけでなく、地域のみなさまとの対話をさらに深め、持続可能な未来に向けた新たな共創を拓くきっかけとなることを心より願っております。

目次

※記載の簡略化のため、本文中では企業名の敬称を省略して表記しております。

学長挨拶・センター長挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

● 特集

デジタル共創研究センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-6

デリバリークラス・高大連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

● 授業による連携・貢献

授業「地域プロジェクト／アドバンス演習　自然体験支援」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

授業「地域活性化演習　スローシティ／スローシティ上級」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

授業「地域活性化演習　絹織物」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

授業「地域活性化演習　共生」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

授業「地域活性化演習　過疎化地域課題探究」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

授業「ボランティア実習」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

授業「グローカルセミナー」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

授業「シティズンシップ演習」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

授業「バーチャルカンパニーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

授業「企業人オムニバス講座」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

授業「群馬を知る」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

授業「群馬の環境政策」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

授業「前橋市を考える」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

授業「長期インターンシップ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

授業「群馬で学ぶ（地域探究）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

授業「前橋市で学ぶ（地域探究）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

授業「地域と企業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

授業「地域企業人の経営力を学ぶ」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

授業「社会文化心理学」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

共愛果茶プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

● ゼミナールによる連携・貢献

繭美蚕／兼本ゼミ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

ぐんま方言かるたプロジェクト／佐藤ゼミ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

野口ゼミ ・・ 20

野口ゼミ／鈴木鉄忠先生スローシティ演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

西舘ゼミ ・・ 21

神宮ゼミ／「Yosolabプロジェクト」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

群馬県デジタルイノベーションチャレンジ「地域ICTクラブ」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
群馬県警察サイバーパトロールコラボレーター／渡辺ゼミ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
奥田ゼミ ・・ 23
児浦ゼミ ・・ 23
曺ゼミ ・・・ 24
桂ゼミ／教師を目指す全国学生ネットワーク「ミライ教師.net」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
八桁ゼミ ・・ 25

● 課外活動等による連携・貢献

政策プロジェクト「共愛COCO」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
政策プロジェクト「Swallow Pick」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
小学校教育サポーター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
テック活用ワークショップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
学生団体「共愛BBS会」（地域活動名：前橋BBS会）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
学生団体「さすてな！」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
「風街夕やけマルシェ クリスマスツリー点灯式」聖歌隊コンサート ・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第１回つながるこどもひろば「ワールドキャンパス in いせさき」 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

● 研究活動等による連携・貢献

共同研究「群馬県内の日本語教育をめぐる現状と課題」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
ぐんまこどもみらいフォーラム2025 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
UDぐんま前橋研修会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
令和7年度榛東村人権（同和）教育公開授業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

● その他事業による連携・貢献

公開講座 ・・ 33
公開授業 ・・ 33
地域連携講座「上毛を学ぶ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
群馬現代史研究会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
陶芸教室／テラコッタ彫刻教室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
出張講座 ・・ 35
めぶく。プラットフォーム前橋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
ぐんま未来イノベーション会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
Back to the Earth　はだし歩きイベント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
ギフテッド教育シンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

教員紹介 ・・・ 39-40

特集Ⅰ

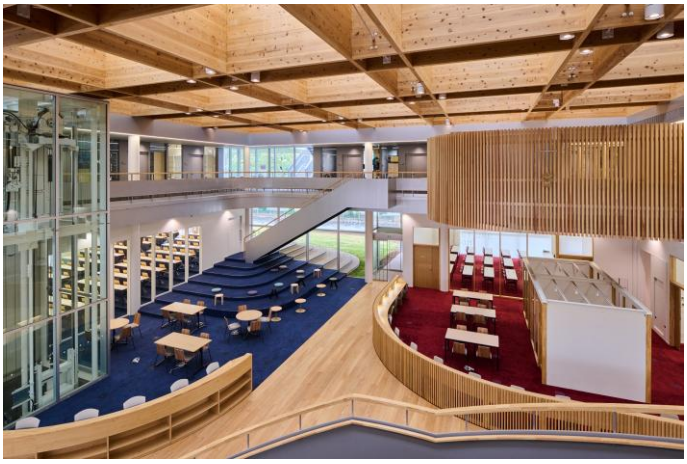
デジタル共創研究センター

概要　デジタル共創研究センターとは


6号館「KYOAI CO-INNOVATION HUB」外観

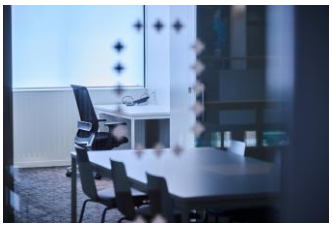
デジタル共創研究センターは2025年4月に設置され、2026年5月には研究施設として「KYOAI CO-INNOVATION HUB」が完成しました。研究員による研究の支援と、共同研究など地域や行政と連携した研究の推進を目的としています。共愛学園が大切にする「グローカル」という教育テーマを本センターでも継承し、地域課題の解決に焦点を置きながら、世界的な先端研究を進めています。所属研究員の研究支援はもちろんのこと、本学の学生が学びを活かして研究にも参加できるような体制を整え、外部企業・団体から訪問研究員を迎えたり、共同研究・受託研究を実施したりします。また、海外の大学や研究機関との連携も強化すべく、パートナーシップの締結も予定しています。

CO-INNOVATION HUBは風通しの良いデザインで、各研究が横断してシナジーが生まれるような設計となっており、外部の方々もシームレスに研究に参加できるようになっています。食や健康を研究するキッチンスタジオや実験室、電子工作や3Dプリント、モーションキャプチャ、ドローン等の研究に活用するFab-Labなど、最新研究機器を備えた設備があり、「デジタル」を主軸とした多様な分野の研究ができます。











研究推進体制

デジタル共創研究センターでは、研究分野ごとにラボを設け、その中に訪問研究員や企業・団体を受け入れて、各種研究が進んでおります。現在は3つのラボ（地域ICTラボ、地理空間情報ラボ、めぶく社会構築ラボ※設立準備中）が設置されており、今後も研究の進行に合わせてラボの新設を予定しています。

本件に関するお問い合わせ

施設見学のご希望や共同研究のご相談を随時受け付けています。
その他、本件に関するお問い合わせも下記にご連絡ください。

デジタル共創研究センター　TEL: 027-288-0998（直通）／027-266-9051（総務部）
MAIL：dccrc-info@c.kyoai.ac.jp

現在の取組・実績　2025年度から現在まで

地域ICTラボ（スマートハウスを活用したERAB国際標準化および社会実装研究）

経済産業省が推進する新しい電力システム「エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネス（ERAB）」の社会実装に向けて、国際標準化と実証環境（スマートハウス）の構築を一体的に推進しています。本研究は、ERAB分野の第一人者であり、国際電気標準会議（IEC）スマートエネルギーシステム委員会のコンビナとして国際標準化を主導する梅嶋真樹上席研究員を中心に進められています。

2025年度は、再生可能エネルギーをより効率的かつ安全に活用するERABの社会実装を目指し、異なるメーカーやシステム間での連携やサイバーセキュリティに対応した国際標準の開発を推進しました。その成果として、日本発の国際規格「IEC SRD 63443-1」が発行され、ERABのシステム構成やサービスの考え方、関係者の役割、データ連携の方法など、世界で共通して利用できる基本的なルールが整理されました。本規格は、日本で培われたERABの知見を国際標準として体系化し、再生可能エネルギーの普及や分散型エネルギーシステムの国際展開を支える基盤となっています。今後も安全で信頼性の高い分散型エネルギーシステムの実現と、その成果の社会実装を目指しています。



地理空間情報ラボ

3D都市モデルや地図データ、位置情報などの地理空間情報を活用し、地域課題の解決に向けた研究を推進しています。2025年度は、エアロトヨタ株式会社と共同で、国土交通省が推進する3D都市モデル「PLATEAU」とサンドボックス型ゲーム「Minecraft」を活用した交通安全学習教材を開発しました。実際の通学路を仮想空間上に再現し、交通ビッグデータや事故履歴などを反映することで、子どもたちが自ら危険箇所を探し、現実の交通環境と結び付けながら学べる教材を実現しました。開発した教材は前橋市立永明小学校において約100名の児童を対象に実証ワークショップを実施し、児童同士が協力しながら主体的に学ぶ様子が確認されました。また、本取組は新聞各紙にも掲載され、地域と連携した新たな交通安全教育の事例として注目を集めました。今後は、PLATEAUが整備されている全国各地への展開検討や、他分野への応用を進め地理空間情報を活用した教育・研究・社会実装を推進していきます。



高校生研究員育成プログラム

高校生を「高校生研究員」として受け入れ、最先端の研究活動に触れる機会を提供するプログラムを試験的に実施しました。本プログラムでは、自ら課題を発見し、考え、挑戦する力を育むとともに、地域から新たな価値を創出できる次世代人材の育成の一助となるよう学びの機会を提供しています。

2025年度は、主に群馬県内在住の高校生を対象に、東京における最先端のデジタル技術や関連研究施設を見学するツアー、大学教員による研究紹介や高校生自身による研究発表を行うワークショップを開催しました。参加者は、基盤研究の途中や研究成果が社会実装される現場、最先端技術に触れるとともに、大学教員や他校の高校生との意見交換を通して、多様な視点や研究的思考を学びました。

「最先端の研究は首都圏にしか存在しない」という固定観念を払拭し、地域から世界へつながる研究の可能性を体感してもらうことを重視しています。今後も、本学が有する研究環境や研究成果を地域へ開放し、地域から世界へつながる研究に触れる機会を提供することで、高校生が自らの可能性や将来を考える契機を創出し、次世代人材育成の一助となる取組を継続していきます。

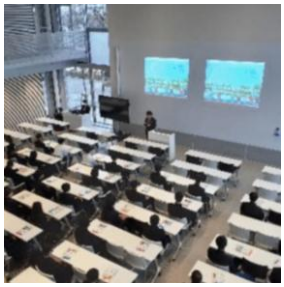
特集Ⅱ

デリバリークラス・高大接続

高校の教室に本学の講義を無料でお届けする、デリバリークラスを実施しています。大学HPに講義内容一覧を掲載しており、学問分野や講義テーマに合わせて選んでいただくことができます。

デリバリークラスについて詳しくはこちら▶

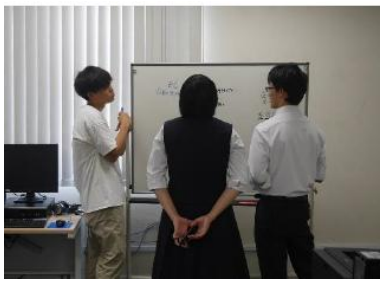
■2025年度実績：14件





また、デリバリークラスだけでなく、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指導や、生徒への面接・レポート指導、教員研修、学生派遣、連携授業の開講等も行っています。また、学校単位での大学見学も受け入れております。

学生によるTeaching Assistant・発表フィードバック・助言等



本学の学生が高校に行って授業のアシスタントを行ったり、生徒の発表を聞いてフィードバックや助言を行ったりしています。学生も新たな発見があり高校生からたくさんの刺激をもらって帰ってきます。

2025年度実績一部



・探究活動アドバイザー　→高崎北高校の探究授業をサポート
・授業アシスタント　→市立太田高校・高崎商業高校等
・模擬市長選立候補　→市立前橋高校のお手伝い

本学教員による発表会指導助言・生徒からのインタビュー等



課題研究や探究活動の発表会に本学教員が行き、発表のアドバイスや講評・指導等を行います。 本学教員が、生徒からインタビューを受けて答える探究活動への参加もありました。

2025年度実績一部



・探究発表会での助言指導　→太田東高校、桐生高校等
・授業、レクチャーなど　→市立太田高校・高崎商業高校・高崎女子高校・前橋清陵高校等
・フィールドワーク指導・面接対策講座　→市立前橋高校
・インターンシップ受け入れ　→伊勢崎清明高校

今後も、地域の中学校・高校との協働により、よりよい教育実践に取り組んでまいります。

本件に関するお問い合わせ　アドミッションセンター　TEL ：027-266-9031　MAIL： mkc@c.kyoai.ac.jp

授業による連携・貢献

授業「地域プロジェクト／アドバンス演習　自然体験支援」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

小学生を対象に赤城山で行う夏休みの自然体験プログラムを計画、実施します。子供たちが安全に、かつ自然の中でのびのびと活動できるようサポートすることで、地域社会の一員としての自覚や行動を促します。前橋市児童文化センターとの共催事業であり、事前研修では同所を訪れ、自治体が子供たちの健やかな成長のためにどのような支援をしているかも学びます。

連携先　前橋市児童文化センター

2025年度実績・成果　8月7日（木）、8月8日（金）（本活動実施日）　<参加者>学生28名（ボランティア含）、小学生28名

8 /7は屋外炊事場でカレー作り（国立赤城青少年交流の家）に挑戦しました。8/8は森を散策しながら植物や生き物について学ぶクイズウオーク（SUBARUふれあいの森）や木工クラフト（あかぎ木の家）を楽しみました。





授業「地域活性化演習　スローシティ／スローシティ上級」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

地域の個性を尊重する「スローシティ」の理念のもと、大学生と住民が任意団体「前橋赤城マイマイの会」を立ち上げ、力を合わせて課題解決に取り組んでいます。拠点とする古民家「大胡ベース」で行う農作業や食農イベント、前橋市が推進する「前橋赤城スローシティ」のイベント参加が主な活動です。

連携先　前橋赤城マイマイの会

2025年度実績・成果　2025年度中通年　<参加者>86名（本学学生40名、卒業生6名、東洋大学学生27名、地域の方13名）

一年を通じて農園での野菜の収穫があり、学内や市内協力施設、マルシェなどで販売しました。さらに収穫した野菜や地場産の農産物を使用し、6/28「じゃが祭り」、12/13「お稲荷祭り」、2/8「おもちつき」などの食農イベントを地域の方々とともに実施しました。また、前橋市の派遣事業の一環として、8/19から8/22にかけて、前橋・赤城と同じチッタスロー国際連盟に加盟する気仙沼市を訪問し、現地調査を行いました。

前橋赤城スローシティエリア他のイベント参加・運営協力は以下の通りです。



道の駅ぐりーんふらわー牧場・大胡はだし歩きイベント（5/24）、赤城山トレイルランニングレース（7/27）、あかぎ大沼・白樺マラソン（8/31）、ヒルクライム大会（9/28）、粕川元気まつり（11/2）、富士見産業祭（11/3）、赤城御神幸歩き地域行事（11/8）、はだしウォーキング「Back to the Earth」/みんなdeマルシェ（11/16）、前橋市里山学校事業（11/29）

授業「地域活性化演習　絹織物」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

織都・桐生市で絹織物をテーマに地域活性化について学びます。現地取材で歴史や産業についての知識を深め、さらに学生自身で絹糸を染めストールを織ります。これらの現場体験から得た知見をもとに、「桐生」「グローカル」「本学」の３つの特徴を踏まえ、世界に発信できる独自の製品を構想、製作、発表します。

連携先　なし

2025年度実績・成果　2025年度前期（土曜中心、全5回）、ファッションショー：7月18日（金）　<履修者>16名

まち歩きや取材活動、染色研修、絹遊塾工房風花での織物実習を通して作品を制作しました。完成した作品は、桐生八木節まつりに着想を得た「融舞（ゆうぶ）八木節」をテーマとするファッションショーで披露しました。桐生市の関係者の方にもご臨席いただいたほか、上毛新聞の取材があり各所で注目いただきました。





授業「地域活性化演習　共生」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

「共生」をテーマに、主に日本のイスラーム社会と地域社会の相互理解について学びます。講義での学びに加え、モスクやハラールショップ、レストランでのフィールドワークやワークショップ、調理実習など、現場の中で学修を深めます。 授業の最終回には、フィールドワークの成果を作品（映像、フォトブック、装いのデザイン、建築模型など）の形にして発表する場を設けています。

連携先　なし

2025年度実績・成果　2025年度後期（土曜中心、全5回）　<履修者>８名

フィールドワークでは東京都内や群馬県内のモスクを訪問し、モスクの建築やファッション、アートなどについてお話を伺いました。また、調理実習ではネパール料理を調理・試食し、食とアイデンティティについて考えました。





授業「地域活性化演習　過疎化地域課題探究」

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

消滅可能性自治体である南牧村・嬬恋村での課題解決を行う地域共創型実践学習の授業として実施しています。人口減少が著しい群馬県中山間地域において、地域内外の多様な人々が関わることで関係人口を創出し、「にぎやかな過疎」を実現することを目的としています。2025年度も、南牧村・嬬恋村での現場体験をもとに、新商品・サービスやローカルプロジェクトの立案・実践に取り組みました。

連携先　嬬恋村役場／嬬恋村内事業者／南牧村役場／道の駅オアシスなんもく／南牧村内事業者

2025年度実績・成果　2025年度前期金曜5限・現場体験・後期課外活動　＜履修者＞前期34名

前期は金曜5限に授業を実施し、中山間地域の課題や先行事例について学んだ後、5月に嬬恋村、6月に南牧村でそれぞれ1泊2日の現場体験を行いました。現地での体験・交流・調査をもとに課題を発見し、「にぎやかな過疎」の実現に向けた新商品・サービスやローカルプロジェクトを企画し、7月には対象地域への提案発表を実施しました。

後期は希望者による課外プロジェクトとして取り組みました。南牧村では、道の駅オアシスなんもくの滞在時間を延ばすことを目的に、「ぬれない足湯」の設置に向けた実践研究を実施しました。現場調査から課題を設定し、設置場所、導入費用、運営方法、プロモーションなどを具体的に検討し、地域での実現可能性を検証しました。



授業「ボランティア実習」

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］国際社会学部、地域共生研究センター

事業概要

学生がボランティアを始めるきっかけとなること、また、ボランティア活動への参加を通して、学生が地域に出て様々なコミュニティを形成すること、活動の中で通常の授業では得難い経験や学びを獲得することを目的としています。通年で県内外の団体からのボランティア募集を学生へ案内しており、年2回開催の講演会では、学生がボランティアに対する理解を深める機会となっています。

連携先　県内外の事業者・ボランティア団体等

2025年度実績・成果　活動：4月17日（木）～1月30日（金）、講演会：7月9日（水）、1月14日（水）　<履修者>68名

ボランティア活動は、学生が自主的にそれぞれの活動へ申し込み、随時活動を行いました。

前期ボランティア講演会は、2023年度から継続して、「ボランティアについて知ろう」をテーマに、髙山弘毅氏（Nukiito代表）にボランティアの基本的な知識等について講演を行っていただきました。

後期ボランティア講演会は、本学学生であり、「えほんのあいね。」として活動を行っている二上愛音さん、同じく本学学生であり、こども食堂「るりあるく」の活動を行っている齋藤舞奈さんのお二人に、それぞれの活動や、自身のボランティア経験・ボランティア活動をとおして得た学びなどについて講演を行っていただきました。

授業「グローカルセミナー」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

2年生必須の演習科目で、300名強の学生が12クラスに分かれて実施されます。前期は県内の地域における課題を様々なデータや現場調査から設定し発表、後期は地域課題の解決策を提案・発表します。クラス内のグループはコース横断的に編成されており、学生はそれぞれの専門性を発揮しながら協働していきます。専任教員約30名もコースを超えて12クラスに分かれて担当し、授業運営を行います。

連携先　前橋市／まちづくり関係者

2025年度実績・成果	2025年度前期・後期の木曜2限　＜履修者＞本学2年生約300名（全員）

2年生全員が48グループ（12クラス×4グループ）に分かれ、それぞれのグループで前橋市を中心に現地調査を行いました。その上で、地域における課題を設定し、それに対しどのような解決策／改善策があり得るか提案を行いました。



授業「シティズンシップ演習」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

市民としての資質を学外の現場に出て考える授業です。2025年度は、2024年度に引き続き、駒形駅前に2020年にオープンしたカフェ「木下商店」の経験に学びながら、大学が所在する近隣地域をどう活性化していくかという課題を、木下商店の店主と一緒に検討し、自分たちにできることを考えました。



連携先　木下商店

2025年度実績・成果	10月28日（火）15：00～17：00　＜参加者＞学生約20名

木下商店を実際に訪れ、その場で店主のプレゼンを聞き、お店がここに誕生した経緯や店主のこだわり、生き方を知ることができました。大学の一番近くの「地域」をいかに活性化するか、店主の問題意識を共有してもらいながら、解決案を一緒に考えました。

授業「バーチャルカンパニーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要



起業家教育プログラム「Youth Enterprise」を利用し、仮想企業を立ち上げる授業です。群馬県をテーマにした新商品の開発を地元企業と連携しながら行い、11月下旬～12 月上旬に行なわれる仮想企業の見本市「Youth Enterprise トレードフェア」でその成果を発表し、受賞を目指します。最終的な目標としては、学生たちのアイディアが商品化されることです。実際に地元企業や自治体などと連携しながら進めることで、その関わりを通して、実社会で必要とされるスキルを身につけていきます。

連携先　県内企業等

2025年度実績・成果　2025年度前期・後期の金曜2限、Youth Enterprise トレードフェア：11月30日(日)　<履修生>39名



授業では、8つの仮想企業を設立しました。その成果を発表する場として、「Youth Enterprise トレードフェア」(会場:京都大学)に7チーム35名が参加し、以下の４チームが受賞しました。

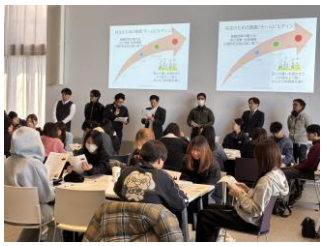
・京都府知事賞…「OTABE」　・エクノーベル賞…「鶴まる」
・ステューデント賞…「Bijou」　・特別賞…「がんとぶ。」

また、「がんとぶ。」はいせさき銘仙の店華々と『いせさき銘仙おりがみ』を共同開発し、11月より販売を開始しました。さらに「OTABE」が「2ひきのうさぎ」と共同で開発した『ねば～ちょこれ～と』は2026年度の販売に向けて準備中です。

授業「企業人オムニバス講座」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要



群馬中小企業家同友会による寄付講座です。毎回異なった地元企業の経営者が登壇し、「仕事」や「人生」のことなどをお話しいただきます。講義に加えグループディスカッションおよびワークを行い、登壇者の話を聞いたうえで自らのこれからの在り方を考える時間にしています。

連携先　群馬中小企業家同友会

2025年度実績・成果　2025年度後期の火曜3限　<履修者>77名

10/7　小松崎真司氏（ローカルガーデン　代表取締役）	10/14　茂原慎吾氏（モハラテクニカ　常務取締役）
10/28　大石尚氏（Being働き方Doing　代表）	11/11　根岸宏行氏（ねぎし農園　代表）
11/18　鷲見エリキ氏（アリサテック）	11/25　諏訪康彦氏（スワコーポレーション　代表取締役）
12/2　長井可奈子氏（ランコントレ　代表）	12/16　齋藤和子氏（コモチ　専務取締役）
1/6　木村明宣氏（木村綜合法律事務所　代表）	1/13　石井洋志氏（石井設備サービス　代表取締役）

11/4と12/9はグループディスカッションを行い、1/20の最終回には「やめること・はじめること～履修生一人一人の宣言～」として、この講義から学んだことこれからの行動で心がけたいことについて一人ずつスピーチしました。

授業「群馬を知る」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

群馬県による寄付講座です。私たちが生活する群馬県は、東京から約100km圏に位置し、豊かな自然や温泉地、住みやすい環境などに恵まれています。本講義では、群馬県が取り組んでいる施策や優れた特性について学ぶことを通じて、本県の魅力や可能性についての理解を深めます。さらに、地域資源を活かしたまちづくりや産業振興、観光振興などの事例を取り上げ、群馬県の現状と将来像を多角的に考察します。これにより、地域社会の一員として、群馬県の発展に貢献するために必要な視点や知識を身につけることを目的とします。



連携先　群馬県

2025年度実績・成果	2025年度後期の火曜2限　＜履修者＞151名

群馬県職員による講義を通じて、自然環境や観光資源、地域産業、環境政策、文化・歴史など、県内の多様な側面について学びました。各回では、具体的な事例紹介や現地の取組が示され、受講者は群馬県の現状や課題を把握するとともに、地域振興や持続可能なまちづくりへの理解を深めました。これらの学びを通して、学生は地域社会の一員としての意識を高め、郷土への関心と理解を深める機会となりました。

授業「群馬の環境政策」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

群馬県による寄付講座です。群馬県では、県の環境政策を総合的に推進するため、「新・群馬県総合計画」を環境面から支える「群馬県環境基本計画（2021－2030）」を2021（令和3）年3月に策定しました。本講義では、この計画の内容を踏まえ、環境に関する最新の動向や事例を交えながら、自然環境、循環型社会、生活環境、地球温暖化対策及び環境活動について学びます。さらに、持続可能な地域づくりや、私たち一人ひとりが果たすべき役割について考察し、環境保全と地域社会の発展の両立を目指す視点を養うことを目的とします。



連携先　群馬県

2025年度実績・成果	2025年度後期の火曜4限　＜履修者＞80名

群馬県職員等による講義を通じて、自然環境、循環型社会、生活環境、地球温暖化対策及び環境活動など、県内の多様な側面について学びました。各回では、具体的な事例紹介や現地の取組が示され、学生は群馬県の現状や課題を把握するとともに、持続可能な地域づくりや私たち一人ひとりが果たすべき役割について理解を深めました。これらの学びを通して、学生は地域社会の一員としての意識を高め、郷土の自然への関心と理解を深める機会となりました。

授業「前橋市を考える」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

前橋市による寄付講座です。同市の各課から派遣された職員による講義を通じて、地域が抱える問題やその解決へ向けての行政の動きなどを学びます。また地域社会の住人、社会人としての自覚を促します。



連携先　前橋市役所

2025年度実績・成果　2025年度後期の火曜日5限　＜履修者＞162名

10/7	共生社会推進課	12/2	長寿包括ケア課
10/14	こども政策課/こども支援課	12/9	資産経営課/環境政策課
10/28	保健予防課	12/16	産業政策課
11/4	文化国際課/観光政策課	1/6	健康増進課
11/11	救急課	1/13	文化国際課
11/18	共生社会推進課	1/20	情報政策課
11/25	都市計画課		



授業「長期インターンシップ」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

後期約4か月間、学生は週3.5日以上、企業や市役所等での実務（社会人との共同作業）を経験し、ビジネスマナーと実践的なスキル、社会人としてのマインドを学びます。研修先から企業課題や地域課題等も提示されるため、単なる就業体験を超えたビジネスパーソン（社会人）についても理解を深めることのできるプログラムです。



学内事前研修では自己分析・ビジネスマナー・目標設定等を行い、月1回の中間報告会と事後研修では、仕事のやりがいと課題・職場から自分たちに求められていること・自身の成長・各自が得た気づきを今後の学びと活動にどう繋いでいくかを振り返ります。研修後は実習先の方をお招きして成果報告会を実施しています。

連携先　前橋市／民間企業

2025年度実績・成果　9月18日（木）～1月26日（月）　＜履修者＞8名

前橋市の情報政策課、市民協働課、生涯学習課、教育支援課（児童文化センター）、GNホールディングス、ジンズの６事業所に８名の学生を受け入れていただきました。

前橋市では５年に一度の国勢調査に係る業務やBPR（業務改善）展示会、市民活動を支えるMサポ関連業務、はたちのつどいや中央公民館に係る業務、児童文化センターの諸業務に取り組み、GNホールディングスでは、総務・経理・情報システム・営業など多岐わたる業務、ジンズでは、JINS PARKを中心とした地域活性のための実施施策に取り組みました。



授業「群馬で学ぶ（地域探究）」

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

2年生以上を対象とした地域連携型学習科目です。群馬県総合計画を学んだうえで、大泉・富岡・桐生等で行われている地域イベントやまち歩きに参加し、現場体験を通して地域の魅力や課題を発見します。特に、関係人口創出・多世代交流・多文化共生をテーマに、地域の行政や観光協会、まちづくり団体等と連携して学びます。また、群馬県庁とも連携し、脱炭素まちづくりワークショップなどを通して、県全体の課題や重点政策について考えます。

連携先　群馬県庁／富岡市・桐生市・大泉町の観光協会・事業者・まちづくり団体等

2025年度実績・成果　2025年度前期の金曜4限・現場体験　＜履修者＞約80名

5月には大泉町「世界のグルメ横丁」と富岡市「げんきフェスタ」、6月には桐生市「買場紗綾市」に参加し、地域の方々との交流やまち歩きを通して、各地域の魅力や課題を調査しました。また、群馬県庁と連携した「脱炭素まちづくりワークショップ」にも参加し、環境・脱炭素と官民共創・地域連携について学びました。

これらの現場体験をもとに、関係人口創出、多文化共生、地域交流等の観点から地域課題を整理し、地域交流に貢献する施策を検討しました。7月には大泉・富岡・桐生の計24グループが成果発表を行い、各地域の関係者から講評を受けたほか、代表チームによる最終発表では群馬県関係者からも講評をいただきました。



授業「前橋市で学ぶ（地域探究）」

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

2年生以上を対象とした地域連携型学習科目です。前橋市総合計画をもとに、「シティプロモーション」と「持続可能なコミュニティづくり」をテーマとして、市役所各部署や地域団体等と連携した現場体験を行い、前橋市の魅力や課題を発見します。また、前橋SNS「めぶくコミュニティ」を活用して市民の声を拾い、学生が考えた企画の妥当性や期待感を検証しながら、学生自身が「前橋の当事者」として、現場での実践を視野に入れた地域プロジェクトを計画・提案します。

連携先　前橋市役所／アーツ前橋／道の駅まえばし赤城／NIPPON語学院／GNグループ／前橋市まちづくり公社
前橋市若者会議／めぶくグラウンド／ほか、まちづくり関係者

2025年度実績・成果　2025年度後期の金曜4限・現場体験　＜履修者＞約50名

10月から11月にかけて、まちなかスペース活用、道の駅まえばし赤城、アーツ前橋、留学生交流、公園ペイントイベント、循環型農園・養蜂体験など、前橋市内の多様なテーマで現場体験を実施しました。学生は行政・地域関係者との交流やインタビュー、現場観察を通して、地域の魅力や課題を調査しました。

その後、地域課題を設定し、LEGOを活用した構想や企画立案を行うとともに、「めぶくコミュニティ」へ企画を投稿し、市民からの意見を反映しながら解決策を具体化しました。1月には領域別および代表チームによる成果発表を行い、前橋市や地域関係者から講評をいただきました。



授業「地域と企業」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

GNホールディングスが提供する寄付講座です。同社より電気自動車「サクラ」5台および急速充電器の提供を受け、これらを教材としたビジネス演習を通じて、協働するや実践的スキルの育成を図っています。



連携先　GNホールディングス

2025年度実績・成果	2025年度後期の火曜4限　＜履修者＞74名

理論学習を組み込みながらグループワークを繰り返し行い、各グループで検討したサクラを使ったカーシェアビジネスのアイデアについて、GNホールディングスに提案しました。この活動の成果として、本学構内に「学内EVカーシェア」事業がオープンし、学生・教職員が専用アプリを通じて予約・利用できる仕組みが整いました。事業準備段階から学生がプロジェクトに参画し、利用料金や利用推進策に関する提案内容が実際の運営方針に反映されています。これにより、環境配慮型モビリティの活用と持続可能な地域社会づくりに寄与するとともに、学生の実践的な学びを深化させていきます。

授業「地域企業人の経営力を学ぶ」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

GISアドバンス（群馬イノベーションスクールアドバンス）加盟企業との連携授業です。各回加盟企業から経営者を一人派遣し、学生たちに経営者のビジョンやキャリアについての考え方を講義します。

連携先　GISアドバンス

2025年度実績・成果	2025年度後期の火曜3限　＜履修者＞43名

経営者の講話とグループによる討議の繰り返しにより、体験的学修を実施しました。

授業「社会文化心理学」

［カテゴリ］連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

心理・人間文化コース2年生対象の授業「社会文化心理学」を履修している学生たちが、前橋七夕まつりにおいて「七夕でつながるワークショップ」と題したワークショップを行いました。



連携先　前橋市

2025年度実績・成果	7月12日（土）　＜履修者＞20名程度

社会文化心理学の履修生たちは15回の授業においてまちのプレイヤーたちのゲストトークやフィールドワークを経て、自分たちの手で作るイベントを体験しました。



共愛果茶プロジェクト

［カテゴリ］連携　［実施主体］KYOAI GLOCAL HONORSプログラム

事業概要

群馬県に本拠地を構える株式会社ハルナプロデュース、株式会社ベイシアとともに、Z世代をターゲットにした飲料開発プロジェクトです。商品企画およびマーケティングを本学の学生、製造をハルナプロデュース、販売をベイシアが担当し、日本全国で飲料販売を展開しています。



連携先　株式会社ハルナプロデュース／株式会社ベイシア

2025年度実績・成果	2025年度中随時　＜参加者＞本学グローカルオナーズ生5名

2024年度に発売・完売した第一弾の共愛果茶をさらに発展させるべく、連携先との会議を重ねて新バージョンの開発活動を実施しました。
新しい味・パッケージデザインを検討・設計し、翌年度早々の発売に向け準備を進めています。





繭美蚕／兼本ゼミ

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］情報・経営コース（現経営コース）兼本ゼミナール

事業概要

2005年6月に情報・経営コース（現経営コース）兼本ゼミの３年生によって設立された『繭美蚕』は、その後、ゼミ学生が代々引き継ぎながら運営する仮想企業となっています。現在は、群馬県の地域活性化を目的として、様々な企業と提携しながら商品開発やイベント販売など、積極的に活動しています。



連携先　県内企業等

2025年度実績・成果　県内外で開催された様々なイベント 計30回　＜参加者＞ゼミ所属学生16名

昨年度行っていた「ぐるりこ」を活用した商品開発のうち、コーヒーを使った「コーヒークラウンズキャンドル」がtree villageによって完成し、繭美蚕のイベント限定で販売されました。

３年生13名は３つのグループに分かれて商品開発を行いました。１グループは、群馬県から依頼のあった「こんにゃくの新たな価値創出に向けた産学官連携プロジェクト」に参画し、2026年6月に行われる食研博に向けて、商品開発を行いました。また、もう１グループは、マルクリ青果と群馬県産やまといもを使った商品を共同で進めており、2026年度での販売を目指しています。

この年で繭美蚕は20周年を迎え、6月にはOB・OGを交えた記念パーティーを開催しました。過去の先輩方から当時の活動の様子や繭美蚕の活動で得たことなどを聞き、学生たちは今後の活動の糧とすることができました。



ぐんま方言かるたプロジェクト／佐藤ゼミ

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］児童教育コース佐藤ゼミナール

事業概要

群馬方言の保存継承を目的に「ぐんま方言かるた」を用いた県民に向けたかるた体験会をはじめとする様々な活動を展開しています。



連携先　ぐんまこどもの国児童会館／渋川市赤城公民館／前橋市清里公民館
共愛学園前橋国際大学短期大学部／富岡市立西小学校・黒岩小学校

2025年度実績・成果　県内外で開催された様々なイベント 計6回　＜参加者＞一般5～80名・学生3～11名

県内各地および本学内で実施した体験会によって、幅広い世代の人々に群馬方言に親しみと愛着を持ってもらうことができました。

体験会のほかに、ぐんま方言LINEスタンプの制作・発売、ジャンボ方言かるたの制作、ぐんま方言グッズ（シール）の制作・配付、方言デジタル絵本の制作・発信、SNSによる情報発信、前橋市方言辞典出版のための支援などを行いました。





野口ゼミ

［カテゴリ］連携・貢献　［実施主体］心理・人間文化コース 野口ゼミナール

事業概要

前橋市の東上野町公民館所蔵文書の調査・研究や、東上野町公民館所蔵文書の読解を行っています。さらに、前橋市東上野町公民館にて、月に一度程度、地域の方々と古文書の読み会を実施し、参加しています。また、中之条町旧六合村赤岩地区の関家文書の調査・研究をしています。調査は早稲田大学・跡見女子大学と共同で実施しています。





連携先　前橋市東上野町/早稲田大学 黒田ゼミナール/跡見女子大学長谷川ゼミナール/中之条町旧六合村赤岩地区の方々

2025年度実績・成果	4月21日（月）、5月26日（月）、7月4日（金）、8月4日（月）、9月29日（月）、10月27日（月）、11月18日（火）、2月2日（月）、9月4日（木）～6日（金）、12月15日（月） ＜参加者＞一般の方2～8名、本学学生1～2名、早稲田大学学生5～6名、

東上野町公民館所蔵文書は、2016年に発見された地域の歴史を伝える文書群です。古くは江戸時代前期350年ほど前の文書から、平成初期のものまでが残っています。野口ゼミでは東上野町自治会の方々と連携し、この貴重な文書群について学びました。実際に触れてみる体験や文書を開いてくずし字を読む経験もしています。興味をもった学生は、その後おおよそ月に１度開催している古文書の勉強会にも参加しています。そこでは主に水帳の読解・分析を地域の方々と行い、ともに理解を深めることができました。

また、中之条町旧六合村赤岩地区の関家文書の調査・研究は2024年度から早稲田大学・跡見女子大学のゼミとともに、旧六合村赤岩地区のみなさまのご協力のもと実施しており、2025年度の２回の調査では、主に関家に残る膨大な古文書の目録採りを行い、法量をはかりました。同時に写真撮影も行いました。主な作業は次年度完了の見込みです。赤岩地区の方々には現地のご案内や、地域のことを教えていただいています。





野口ゼミ・鈴木鉄忠先生スローシティ演習

［カテゴリ］連携　［実施主体］心理・人間文化コース 野口ゼミナール、その他

事業概要

毎年４月と12月の初辰の日に、二宮赤城神社と三夜沢赤城神社を神様が行き来する御神幸の行事が行われており、当地域歴史三団体主催による御神幸の道を歩く催しが開催されています。阿久澤家接待の場所・御輿懸から参道松並木を歩くものであり、このイベントに学生も主催者側のお手伝いをしながら参加し、学んでいます。



連携先　宮城郷土史会／荒砥史談会／大胡歴史研究会

2025年度実績・成果	11月8日（日）　＜参加者＞地域の方多数、学生8名（野口ゼミ2名、授業「スローシティ演習」履修者6名）

イベントの遂行をサポートしながら、御神幸という行事について、歩いて学ぶことができました。

西舘ゼミ

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］全学教育推進機構 西舘ゼミナール

事業概要

前橋市内中学生を対象とした国際理解推進事業「国際理解連続講座」やRootsインターン事業への協力を行いました。

連携先　前橋市国際教育推進委員会／NPO法人多文化共生ぐんま／群馬県地域創生部／NPO法人カタリバ

2025年度実績・成果

多文化共創担い手育成事業「地域の未来を次世代と共に創る～多文化共創担い手育成事業Rootsインターン報告会～」において、ゼミ担当教員の西舘崇准教授（本学）がパネルディスカッションのファシリテーションを担当しました。

神宮ゼミ／「Yosolabプロジェクト」

［カテゴリ］連携　［実施主体］情報・経営コース（現経営コース）神宮ゼミナール

事業概要

「現場に学ぶ　現場で学ぶ」「地域で学ぶ　地域に学ぶ」をプロジェクトポリシーとして、地域企業や団体の「真の問題」を発見し、課題解決のサポートをすることを目的とする神宮ゼミ内プロジェクトです。連携先企業である三幸機械株式会社は、大型機械加工を中心とする高い技術力を持つものづくり企業です。学生と社員の方とでチームを形成し相互に学び合いながら、生産現場の効率化・高付加価値化を目指し、5Sを中心とした改善活動に取り組んでいます。



連携先　三幸機械株式会社

2025年度実績・成果

毎月第1第3火曜日ほか　＜参加者＞連携先企業社員の方15名、学生19名

2025年度はこれまでの製造部での5S活動チームに加え，品質保証部，営業部においても学生と社員メンバーとで5S活動チームを発足し、全9チームで業務改善活動に取り組みました。生産性向上や不良率低減など、各チームで目標を設定し、現状に即した実効性の高い改善活動を継続し、成果をあげることができました。課題解決力をはじめとする社会人力の向上という観点からも、本プロジェクトを通して学生は大きく成長することができました。

群馬県デジタルイノベーションチャレンジ「地域ICTクラブ」

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］情報・経営コース（現デジタル共創学部）村山ゼミナール・渡辺ゼミナール

事業概要

群馬県デジタルイノベーションチャレンジ「地域ICTクラブ」の一環として、群馬県・上毛新聞社と協働して群馬県内の学童クラブにてMinecraftを用いたプログラミング学習キャンプを実施しています。学生がメンターとなり、初めてプログラミングに挑戦する子どもたちのサポートを行いながら、地域の子どもたちのICT教育に貢献しています。

連携先　群馬県／上毛新聞社

2025年度実績・成果	11月9日（日）、11月15日（土）、11月16日（日）、11月29日（土）、12月6日（土）、12月20日（土）、12月28日（日）、1月10日（土）、1月24日（土）、2月1日（日）、2月14日（土） ＜参加者＞一般者50名（複数回参加）、学生のべ20名

2025年度は吾妻町および安中市の学童クラブで各５回実施し、それぞれ約25名のこどもたちがプログラミングの基礎から実践まで学びました。最終回はそれぞれが作ったクイズゲームを披露しあい、思考・実行・振り返りを通して論理的思考力、表現力を身につけてくれました。

群馬県警察サイバーパトロールコラボレーター／渡辺ゼミ

［カテゴリ］連携・貢献　［実施主体］情報・経営コース（現デジタル共創学部）渡辺ゼミナール

事業概要

群馬県警察学生サイバーパトロールコラボレイターは、サイバー空間の健全化とサイバー空間における利用者の規範意識の向上を図り、安全で安心して利用できるサイバー空間の確保を目的として、群馬県警により平成29年に発足されたものです。本学渡辺ゼミナールも群馬県警察から委嘱を受け、SNSの有害情報通報や広報啓発活動を行うボランティア活動を行っています。



連携先　群馬県警察

2025年度実績・成果	6月6日（金）委嘱式、8月8日（金）、8月31日（日）、11月16日（日）、11月28日（金） ＜参加者＞学生1～6名

県内各地の会場において、サイバー犯罪被害防止等に関する広報啓発活動及び教育活動を実施しました。また、インターネットを通じて把握した違法情報及び有害情報の通報等も行いました。





奥田ゼミ

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］心理・人間文化コース　奥田ゼミナール

事業概要



奥田ゼミでは、自治体や企業、商店街、他大学等と連携し、学生が地域や社会と直接関わる実践的な活動に取り組んでいます。前橋まちなかでのイベントや子ども向けワークショップ、赤城山のグランドデザインに向けた調査・提案、若者のライフデザイン支援、他大学との合同プロジェクトなど、多様な活動を展開しています。フィールドワークや企画、対話、プレゼンテーション等を通じて、地域課題の解決や地域の活性化に貢献するとともに、学生の実践的な学びにつなげています。

連携先　慶應義塾大学／株式会社JYM／小川屋／グルマンカレー／前橋中央通商店街／株式会社NIRO&Co.／MMA
群馬県／こども家庭庁／まちなか絵本パラダイス実行委員会

2025年度実績・成果	2月1日（土）、4月21日（月）、7月12日（土）、7月25日（金）、8月1日（金）、8月8日（金） 9月3日（水）、10月10日（金）、10月25日（土）、10月28日（火） ＜参加者＞本学学生 4～20名、他大学学生 約20名、一般参加者約30名、企業・関係 約10名



2/1に慶應義塾大学との合同合宿を行い、大学・学年混成チームで前橋の課題を調査し、解決策を提言。4/21から卒業生が経営する企業で長期インターンシップを実施。7/12の前橋七夕まつりでは地域店舗と連携したワークショップ、7/25には連携企業等を招いた各プロジェクトの成果発表を行いました。8/1にはまちなかで子ども向け縁日、8/8には高校生・大学生向けライフデザインサマーキャンプを実施し、その成果を9/3のこども家庭庁「Youthの対話カフェ」で全国の大学生に発信。10/10・25には赤城山グランドデザイン策定に向けたワークショップ、10/25にはまちなか絵本パラダイスで子ども向け企画を実施。10/28には赤城山で現地調査、住民への聞き取り、宿泊体験を行い、地域の将来像を提案しました。

児浦ゼミ

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］全学教育推進機構 児浦ゼミナール

事業概要

学生が群馬県内に対象地域を設定し、生活・社会・環境領域における地域課題を見出したうえで、地域コミュニティ振興 または 地域プロモーションにつながる「ローカルプロジェクト」を企画・デザインします。地域共創型実践学習として、各地域において小規模な実践と検証を行い、その成果を事業プランやアクションプランへと発展させるとともに、4年次には一連の実践を卒業研究として学術的にまとめていきます。

連携先　前橋市（市役所・まちづくり公社・太陽の会・㈱カテナスなど）／伊勢崎市／富岡市／桐生市／吉岡町／玉村町／みなかみ町／南牧村／各自治体の行政・まちづくり事業者・団体

2025年度実績・成果	年度中通年　＜参加者＞本学学生26名および 各地域の行政・事業者等



前橋・吉岡・玉村・富岡・桐生・伊勢崎・みなかみ等をフィールドに、学生が設定した研究テーマに基づくローカルプロジェクトを実践しました。前橋市南町・大利根町では㈱カテナス様ご支援のもと「こども食堂るりあるく」の継続運営や、太陽の会様・まちづくり公社様ご支援のもと「まえばしこどもフェス」の開催、市民協働課連携のもと「Mサポコモンズ若者交流イベント」の実施、吉岡町・玉村町・南牧村ではボッチャを活用した多世代交流、吉岡町や前橋市大利根町ではLEGOを活用した公園づくりワークショップなどを実施しました。また、富岡・桐生・前橋でのまち歩きや偏愛マップづくり、いせさき楽市での伊勢崎銘仙ランタンづくり、みなかみみらいマルシェ（旧廃墟再生マルシェ）への参加・出店など、地域プロモーションにつながる実践も数多く展開しました。これらの活動を通して得られたデータや経験をもとに、地域コミュニティ振興、地域愛着・再訪意向、若者の地域参画等をテーマとした卒業研究へと発展させることができました。

曺ゼミ

［カテゴリ］連携　［実施主体］情報・経営コース（現経営コース）曺ゼミナール

事業概要

本ゼミナールでは、起業や地域産業への理解を深めることを目的に、社会見学やインタビューを通じた実践的な学修を行っています。行政機関、企業、支援機関などの創業支援の仕組みや地域産業政策、官民連携の取組について現場から学んでいます。これらの活動を通じて、学生が地域に根ざしたビジネスや将来のキャリアについて主体的に考える力を養うことを目指しています。

連携先　群馬県未来投資・デジタル産業課／前橋市創業支援センター／Office刃-YAIBA-／前橋商工会議所
合同会社NowNever／デロイトトーマツMAEBASHI Social Innovation Hub

2025年度実績・成果	5月16日（木）、6月5日（木）、7月3日（木）、10月2日（木）、11月6日（木）、12月11日（木）　＜参加者＞学生約10名

学外での社会見学やヒアリングを通じて、起業支援や地域産業の現場を多角的に学ぶ活動を行いました。創業拠点や支援機関、行政、企業の取組に触れることで、地域におけるビジネスの成り立ちや支援の仕組みと企業の経済活動を具体的に理解する機会となりました。また、起業家や実務担当者との対話を通じて、事業運営に伴う課題や意思決定の考え方に触れ、実社会と結びついた学びを深めました。

桂ゼミ／教師を目指す全国学生ネットワーク「ミライ教師.net」

［カテゴリ］連携・貢献　［実施主体］児童教育コース（現学校教育コース）桂ゼミナール

事業概要

本団体「ミライ教師.net」は、教師を目指す全国の学生ネットワークです。「学ぶ・遊ぶ・つながる」をコンセプトにして、「日本の教育を元気にする」ことが目的です。本学桂ゼミナールに所属する学生が中心になって、教育イベントの企画・運営をします。本団体は、一般社団法人日本授業UD学会の学生部会としても位置づけられらています。

連携先　一般社団法人 日本授業UD学会／ミライ教師.net

2025年度実績・成果	10月24日（金）、11月29日（土）、12月19日（金）、1月24日（土）、2月21日（土）、3月27日（金）　＜参加者＞各回、現場教員約20名、学生約10名

2025年度は、教育現場で活躍されている先生を講師としてお招きして、国語科教育、特別支援教育、学級経営などをテーマに、オンラインでの学習会を6回実施しました。各回とも、授業力向上を目指す現場の教員と教師を目指す学生が参加して、テーマに基づいてディスカッションをしました。



八桁ゼミ

［カテゴリ］連携　［実施主体］児童教育コース（現学校教育コース）八桁ゼミナール

事業概要

八桁ゼミでは、「音楽×多文化共生教育」を核として、学生の興味・関心に基づくフィールドワークを実施しています。2025年度は、日本語学校とこども食堂の視察、地域の音楽療法士を招いた勉強会、外国人児童への支援活動を行いました。

連携先　NPO法人てんとうむし「子ども食堂てんとう虫」／NPO法人アスワード「ヒカリエキッチン」
アッコラ日本語学院／音楽教室おとあかり／伊勢崎市立境小学校

2025年度実績・成果

6月13日（金）、6月27日（金）、7月18日（金）、7月23日（水）
6月13日（金）～7月15日（火）、12月2日（火）～1月16日（金）　＜参加者＞9名

ゼミ活動の一環として、日本語学校およびこども食堂の訪問、音楽療法士による講演・ワークショップへ参加しました。アッコラ日本語学校では、授業を参観し、絵の伝言ゲームや、日本のわらべうた、歌唱活動等を通して交流を深めました。また、本学卒業生が伊勢崎市内で運営している２箇所のこども食堂を訪問し、現場の声を直接聞きました。さらに、玉村町で音楽療法士としてご活躍の長江祐子先生をお招きし、発達特性のある子どもに対する音楽療法の実践に体験的な活動を通して理解を深めました。

2023・24年度に続いて、伊勢崎市立境小学校の日本語教室において支援活動を実施しました。教壇に立った際に外国人児童のニーズにどのように応じることができるかを考える機会となりました。







課外活動等による連携・貢献

政策プロジェクト「共愛COCO」

［カテゴリ］連携・貢献　［実施主体］国際社会学部

事業概要

「地域の孫になる」ことをコンセプトに、年間を通してみなかみ町の準限界集落（藤原地区平出集落）で、住民の方々とのふれあいの中で持続可能な地域づくりを考えます。また、同町観光協会との連携や、前橋市内のイベント出展などでみなかみ町の広報活動にも努めています。



連携先　みなかみ町藤原平出集落／みなかみ町観光協会／前橋芸術文化れんが蔵

2025年度実績・成果　2025年度中通年

地域の見守り活動として、年間22回にわたり平出集落を訪問し、住民の方々と協力しながら、除草、落ち葉掃き、竹の伐採、獣害対策、除雪などの作業を行いました。

また、みなかみ町で開催された「みなかみ3ダム春の点検大放流（5/17、18）」、「藤原湖マラソン（8/17）」、「おいで祭り（9/6、7）」、「New Acoustic Camp（9/14）」にもボランティアスタッフとして参加しました。





さらに、みなかみ町20周年イベント「SONGS for MINAKAMI HEART歌うまコンテスト（10/4）」や前橋市の「れんが蔵マルシェ（5/31、2/7）」などのイベントではブースを出展し、団体のこれまでの活動実績やみなかみ町の魅力を紹介しました。

政策プロジェクト「Swallow Pick」

［カテゴリ］連携・貢献　［実施主体］国際社会学部

事業概要

伊勢崎市の事業であるボランティア団体「子ども日本語教室・未来塾」と連携し、伊勢崎市の外国人の子どもたちへの日本語や学校の教科学習の支援を行うものです。地域活性化や学生生活の向上のための学生による活動を支援する制度「政策プロジェクト」の一環として取り組まれています。

連携先　伊勢崎市教育委員会／子ども日本語教室・未来塾

2025年度実績・成果　毎週土曜日9：30～11：30（長期休み期間等を除く）　＜参加者＞約20名

伊勢崎市にある外国にルーツを持つ子どものための「子ども日本語教室・未来塾」で学習支援を行いました。メンバーが月に１回程度、絆の郷・広瀬生涯学習館教室において未来塾の活動に支援者として参画するだけでなく、毎週定例会を開き、情報共有や子どもたちのよりよい学習・居場所づくり支援となるよう話し合いを重ねました。また、学期末のお楽しみ会も企画・開催し、リース作りなどの季節にあった工作や、ジェスチャーゲームのような楽しい活動も行いました。



小学校教育サポーター

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］児童教育コース（現学校教育コース）

事業概要

小学校教諭を目指す学生が、ボランティアとして週１時間決められた小学校に赴き、担当教諭の指導の補助を行う中で、授業の進め方、学級づくりの在り方、様々な児童への関わり方、安全管理などの配慮事項を学びます。

連携先　前橋市立駒形小学校／前橋市立永明小学校／前橋市立笂井小学校／共愛学園小学校

2025年度実績・成果	2025年度前期・後期5月～12月（週1時間以上、全10回以上）　＜登録者＞28名

学生の自己評価の結果は以下のとおりでした。

【授業補助を通して学んだこと】

・授業のつくり方	82%
・児童とのかかわり方	93%
・教材・教具の扱い方	68%
・発問の仕方	64%
・板書の仕方	71%
・指導形態のあり方	79%
・学力差や特性などの個に応じた指導	86%
・ICT機器の活用の仕方	82%

【学級の様子から学んだこと】

・掲示物の種類や内容の工夫	82%
・掲示の仕方の工夫	68%
・教室内の整理・整頓の工夫	68%
・教室内の安全対策の工夫	54%
・教室内の環境整備の工夫	54%

テック活用ワークショップ

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］国際社会学部

事業概要

太陽誘電株式会社と連携し、テクノロジーの利活用によって社会課題の解決に取り組むワークショップを実施しています。10月のキックオフで最先端技術を学んだ後、学生たちはグループごとに活用方法を企画・検討します。12月の中間報告会では進捗を発表し、開発者からのアドバイスを受けて内容を深めたうえで、2月の最終成果発表会でその成果を発表します。産学官の協働を通じて、学生が実社会に目を向ける貴重な機会と文理を越えた知識横断の学びが創出されています。

連携先　太陽誘電株式会社

2025年度実績・成果	キックオフ：10月2日（木）、中間報告会：12月11日（木）、採取発表会：2月9日（月）　＜参加者＞約70名

「Iotソリューションsoliot 」「水害モニタリングシステム」「光変位センサ」「回生電動アシストシステム」「においセンサ」の5製品・技術の活用方法を検討しました。16チームが最終発表会へと進み、チーム「ちゃみたま」の発表「光変位センサを用いた擁壁モニタリングシステムの提案」が最優秀に輝きました。





学生団体「共愛BBS会」（地域活動名：前橋BBS会）

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］国際社会学部（前橋BSS会事務局）

事業概要

本に事務局を置く地域BBS会として、2025年6月に設立いたしました。学生と地域が協働し、本学の教育理念である「共愛・共生」の精神に基づき、青少年の健全育成と更生支援を目的とした地域連携・社会貢献活動を展開しています。赤城少年院での学習支援、児童養護施設での交流活動、「社会を明るくする運動」への参加、矯正展や親子工作教室などの地域ボランティア活動を実施するとともに、更生保護関係機関と連携した学内研修会も開催しています。

連携先　前橋保護観察所／関東地方更生保護委員会／前橋保護区保護司会／更生保護女性会／赤城少年院／前橋刑務所
児童養護施設／地域BBS会等

2025年度実績・成果	設立総会；6月23日（月）　活動：7月6日（日）、7月26日（土）、8月9日（土）、8月28日（木）、9月随時、11月8日（土）、3月30日（月）　＜参加者＞一般の方3名、学生23名

2025年度から、学生が主体となって地域と連携した更生支援・青少年健全育成活動を開始しました。赤城少年院での学習支援や参観、児童養護施設での交流活動、「社会を明るくする運動」や矯正展などの地域ボランティア活動に参加するとともに、更生保護関係機関と連携した学内研修会も開催しました。学生が実践を通して社会課題への理解を深め、地域社会とともに学び成長する貴重な機会となりました。



学生団体「さすてな！」

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］学生団体「さすてな！」、SDGs推進委員会

事業概要

「さすてな！」は、共愛学園前橋国際大学のSDGs有志学生チームです。学生が主体となり、地域や企業、行政と連携しながら、ワークショップやイベント、啓発活動などを通じてSDGsの普及・実践に取り組んでいます。廃棄予定食材や海洋ごみなど身近な環境課題をテーマに、アップサイクルや資源循環を体験的に学ぶ機会を創出し、持続可能な地域づくりに貢献しています。

連携先　前橋市永明公民館

2025年度実績・成果	3月22日（日）　＜参加者＞学生7名、一般参加者12組

親子向けワークショップ「あつまれ！ベジキャンファクトリー！」を前橋市永明公民館と連携して開催し、学生団体「さすてな！」の7名が企画・運営を担いました。廃棄予定の野菜や果物の皮、コーヒーかすなどを活用したキャンドルづくりを通して、フードロス削減や資源の有効活用について体験的に学ぶ機会を提供しました。当日は事前予約で満席となる12組の親子が参加し、アップサイクルへの理解や環境配慮への意識向上につながるとともに、学生にとっても地域連携や実践的な学びを深める機会となりました。





「風街夕やけマルシェ クリスマスツリー点灯式」聖歌隊コンサート

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］共愛学園前橋国際大学聖歌隊

事業概要

共愛学園前橋国際大学聖歌隊は、開学当初から建学の精神を体現する団体として活動を続けています。チャペルアワーや学園祭といった学内での演奏のみならず、学外でもまちづくりや地域活性化に協力しています。2025年度は1年生から4年生まで17名が在籍し、週2回の練習を行って演奏技術の向上に努めています。

連携先　前橋中心商店街協同組合 風街夕やけマルシェ実行委員会

2025年度実績・成果　12月5日（金）　＜参加者＞学生13名、一般来客多数

「前橋中心商店街協同組合 風街夕やけマルシェ実行委員会」様からのご依頼を受け、まちなかの前橋中央イベント広場にてクリスマスツリー点灯式に協力しました。合唱とトーンチャイムでクリスマスソングや讃美歌をお届けし、地域の皆さまと共にクリスマスを迎えるひとときを過ごしました。

本学の建学の精神が地域活性化と深く結びつき、ご来場いただいた多くの皆様にお楽しみいただける催しとなりました。

点灯式の様子は12月9日付けの上毛新聞にも掲載されています。



第１回つながるこどもひろば「ワールドキャンパス in いせさき」

［カテゴリ］貢献・連携
［実施主体］主催：伊勢崎市教育委員会・本学、主管：伊勢崎市教育委員会生涯学習課・「八桁ゼミ」有志

事業概要

本事業は、伊勢崎市教育委員会との共催で実施された外国人・日本人児童の交流の活性化をめざした学校外教育における交流会です。本事業実施にあたり、大学生は、伊勢崎市教育委員会の職員や、外国籍児童生徒学校生活適応支援助手の先生、そして互いに学びながら、１月から３月にわたって延べ７回のミーティングをもち、準備を行いました。本番では、伊勢崎市豊受公民館にて、３時間の交流会を実施しました。なお、本事業は科研費（25K17006・八桁由布樹）の助成を受けています。



連携先　伊勢崎市教育委員会

2025年度実績・成果　3月28日（土）　＜参加者＞学生10名、児童計25名、生徒8名、連携先担当者等2～3名

学生は、児童が本交流を通して楽しさを感じながら触れ合い、児童自身の世界を広げ、相手を知ろうとする姿勢をもつことを目標に設定して取り組みました。当日は、支援者から紹介されたペルーの薬玉を割るうたを伴った遊び《piñata》、ベトナムのうたを伴う鬼遊び《Rồng Rắn Lên Mây》，日本の《だるまさんが転んだ》，等の世界の遊びや、バースデーチェーンなどのレクリエーション、手形アートなどを楽しみました。児童の交流が深まっただけでなく、生徒・大学生、保護者、参観者からもたくさんの笑顔が生まれました。

なお、本イベントについては、上毛新聞電子版の2026年3月29日の記事でも紹介されています。



研究活動等による連携・貢献

共同研究「群馬県内の日本語教育をめぐる現状と課題」

［カテゴリ］連携　　［実施主体］本学共同研究費助成事業「群馬県内の日本語教育をめぐる現状と課題
～ 多文化共生・共創社会に向けた基礎研究の一環として」

事業概要

本研究会は、学内の共同研究費によって運用され、群馬県の日本語教育を取り巻く状況や実態を掴み、地域の日本語教育および多文化共生・共創社会の実現を目指す地域づくりを担う本学のあり方を多角的に検討することを目的として2025年度より３年間の実施をめどに活動しています。学内４名と学外のメンバー2名が連携し、地域の日本語教育・多文化共生に尽力されている方をゲスト講師に迎えた勉強会のほか、フィールドワークも行っています。

連携先　NPO法人Gコミュニティ／多文化共生センターおおた

2025年度実績・成果	6月7日（土）、7月26日（土）、8月28日（木）、11月15日（土）、3月7日（土） ＜参加者＞研究会メンバー学内4名（呉宣児、竹内愛、西舘崇：2025年度代表、八桁由布樹）、学外2名（大津幸信、正田江利子）、ゲスト講師2名（本堂晴生、古川敦子）

2025年度の成果は、実践者である教員・支援者の取り組みから、生活者としての日本語教育、および小・中・高等学校における日本語教育・外国人児童生徒への支援について、現場の視点から多くの知見を得ることができ、その実態と課題の一端を把握することができた点にあります。具体的な取り組みとして、高等学校における「日本語指導の体制づくり」の実践と課題（大津）、外国人児童生徒の教育支援と並行して取り組む外国人日本語学習支援ボランティア養成講座のあゆみと概要および意義と展望（Gコミュニティ本堂氏、正田）、大学が果たしうる日本語教育人材育成の役割（古川氏）に関する発表をふまえたディスカッション、および「多文化共生センターおおた」への視察を行いました。

ぐんまこどもみらいフォーラム2025

［カテゴリ］連携・貢献　　［実施主体］奥田雄一郎教授

事業概要

群馬県による「ぐんまこどもモニター」の成果報告として群馬県主催の「ぐんまこどもみらいフォーラム」に登壇しました。



連携先　群馬県

2025年度実績・成果	12月20日（土）　＜参加者＞小学生から大学生まで20名程度

群馬県による小学生から大学生までを対象としたアンケート調査「ぐんまこどもモニター」の最終成果報告として、群馬県主催の「ぐんまこどもみらいフォーラム」に登壇しました。



UDぐんま前橋研究会・第2回研究大会「ミライの学び」ライブ！

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］日本授業UD学会 ぐんま前橋支部

事業概要

日本授業UD学会は、本来、教科等の授業で追究していた「わかる・できる」授業づくりを再考するとともに、特別支援教育や学校経営の考え方を活かすことで、通常学級のクラス全員の子どもたちが、楽しく学び合い「わかる・できる・探究する」授業をつくることを目指す学会です。そのぐんま前橋支部の活動の一環として、研修会やフェスタの開催を行っています。



連携先　一般社団法人日本授業UD学会

2025年度実績・成果	5月2日（金）第3回定例研究会、9月19日（金）第4回定例研究会、11月15日（土）第2回研究大会「ミライの学び」ライブ！ ＜参加者＞定例研究会 約20名（うち学生5名）、研究大会 約200名（うち学生15名）

第3回定例研究会では、「明日からできる全員参加の道徳授業入門」をテーマに、瀬戸山千穂教諭（前橋市立粕川中学校）による講演を行うとともに、参加者との ディスカッションを実施しました。第4回定例研修会では、「子どもの学びを支える授業スキル」をテーマに、星優樹教諭（東京都・明星小学校）および小野絵美教諭（長野県・公立小学校）による 実践発表とディスカッションを行いました。また、11月に開催した第2回研究大会「ミライの学び」ライブ！では、「いま、必要な授業の力」をテーマに、桂聖准教授（本学）による国語科の公開授業、田中博史氏（「授業・人」塾代表）による算数科の公開授業、そして児童文学作家の斉藤倫氏による講演を行いました。

令和７年度榛東村人権（同和）教育公開授業

［カテゴリ］連携・貢献　　［実施主体］野口華世教授

事業概要

「歴史の中の偏見―藤原道長・紫式部・法条政子・牧の方から―」というテーマにて、榛東村の教育関係者及び地域社会の方々を対象に、人権教育の推進に係る公開授業を行いました。歴史上の人物について伝えられていることは、実は偏見に満ちたものが多く、その偏見からの解放が進んでいるということを、具体的にお話しいたしました。

連携先　榛東村人権教育推進協議会

2025年度実績・成果	11月20日（木）　＜参加者＞人権教育推進協議会委員・榛東村議会議員・人権教育推進委員・集会所運営委員・人権を守る榛東の会役員・村内保育園保育士、幼稚園・小学校・中学校教職員榛東村教育委員会事務局職員等、約100名

榛東村の教育関係者など、多くの方々が榛東村立南小学校の体育館にお集まりくださり、熱心に授業に耳を傾けていただけました。また、榛東村の中学校にお勤めの本学卒業生も参加してくださり、良い繋がりを感じることができました。

その他事業による連携・貢献

公開講座

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］地域共生研究センター

事業概要

地域の方向けの生涯学習講座として、年1回11月末～12月初旬に開催しています。毎年異なるテーマで講座やワークショップを行い、50～100名の参加者とともにテーマについて考え、学びを深める機会としています。群馬県生涯学習センターが運営する「ぐんま県民カレッジ」の連携講座でもあります。



連携先　群馬県教育委員会／前橋市／前橋市教育委員会／伊勢崎市教育委員会／前橋商工会議所／FM群馬／群馬テレビ／上毛新聞社／まえばしCITYエフエム/FM桐生（いずれも名義後援）

2025年度実績・成果　12月6日（土）　＜参加者＞約110名

「響きあう心、つながる力－リズムを通じて伝え合う、世代をむすぶドラムサークル－」をテーマに、第1部「ドラムサークル体験」、第2部「講座・体験」の2部構成で開催しました。ドラムサークルのファシリテーター・講師には、清水和美氏（スマイルビート代表）、サブファシリテーターには爲永暁子氏、鈴木基氏（いずれもトレーニングビート®トレーナー）、副講師には松村貴光氏（株式会社ビートオブサクセス代表取締役）を迎えました。

実際に楽器に触れるドラムサークル体験や、講師によるこれまでの実践例紹介、ドラムサークルの持つ可能性に関する講座、チームビルディング体験などを通して、約110名の参加者がテーマについて体感し、考え、学びました。



公開授業

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］地域共生研究センター

事業概要

本学の授業の一部を一般の方に無料で公開し、地域の皆様と一緒に「共生」について考える事業です。2022年度以降は群馬県教育文化事業団と共催で、授業「人間を考える」の1コマ分を使い、県内団体による伝統芸能の公演（人形浄瑠璃）を行っています。地域の方や若い世代に対する、県内伝統文化の魅力発信・啓発にもなっています。



連携先　群馬県／（公財）群馬県教育文化事業団

2025年度実績・成果　11月27日（木）　＜参加者＞約90名（本学学生含む）

沼田市で活動する、沼須人形芝居保存会「あけぼの座」による、「日高川入相花王」の公演を行いました。一人遣いのハサミ式指人形が特徴の人形芝居であり、公演のほか、人形についての解説講座および、実際に演劇で使用されている人形の操作体験を行いました。





地域連携講座「上毛を学ぶ」

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］地域共生研究センター

事業概要

毎年2～3月に市内公民館等と連携して、前橋市の特色や地域の歴史について学ぶ講座を行っています。実施先の公民館等に合わせて、毎年その地区に縁のある施設、歴史的資料、建造物、信仰などを中心テーマとして実施し、参加者が地域の歴史を学ぶことができる機会としています。



連携先　市内公民館等

2025年度実績・成果	2月15日（日）、3月1日（日）　＜参加者＞2日間合計約50名

前橋市桂萱公民館にて、「上毛を学ぶ－桂萱地区の歴史を学ぶ－」をテーマに、2回に渡り講座を開催しました。第１回目は「群馬県の中世石造物と桂萱地区」と題し、村山卓氏（公財 埼玉県埋蔵文化財調査事業団職員）による講座を、第2回目は「古代の桂萱郷―日と信仰から地域社会を探る―」と題し、高橋人夢氏（吉岡町教育委員会文化財センター）による講座を行い、それぞれの専門的観点から桂萱地区について学びました。



群馬現代史研究会

［カテゴリ］貢献　［実施主体］地域共生研究センター

事業概要

群馬県の近現代史研究、特に戦前・戦後の群馬県の歴史について研究を行っています。研究は、本学教員ならびに本学教育に縁のある研究者で構成される「群馬現代史研究会」を中心に行っており、研究成果の発表・共有を毎年10月と3月の2回行っています。この会には、委員のほか、興味・関心のある方は誰でも参加が可能です。

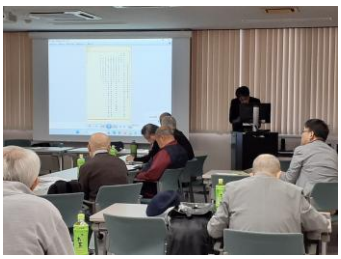


連携先　なし

2025年度実績・成果	10月11日（土）、3月7日（土）　＜参加者＞各回約20名

10月11日（土）に開催した第31回群馬現代史研究会では、和田健一氏より「埋められた多胡碑終戦直後の秘話」と題する報告が行われました。

3月7日（土）に開催した第32回研究会では、井坂優斗氏（館林市教育委員会 市史編さんセンター）より「年表から見る平成以降の群馬県」と題する報告が行われました。いずれの回も、報告後の質疑応答では活発な議論・意見交換がなされました。



陶芸教室／テラコッタ彫刻教室

［カテゴリ］貢献　［実施主体］地域共生研究センター

事業概要

地域の方向けの生涯学習講座として、陶芸やテラコッタ彫刻の体験教室を開催しています。制作をとおして、地域の方との交流やものづくりの楽しさを広めることを目的とし、毎年2～3月に全2～3回の日程で行います。ものづくりの体験のほか、工程の解説や完成品の講評など、知識の面でも学ぶことができる内容となっています。



連携先　なし

2025年度実績・成果　2月21日（土）、3月7日（土）、14日（土）　＜参加者＞17名

『たたらづくりで陶器を作ろう』と題し、粘土成型、釉薬掛け、作品講評の3回に渡って陶芸教室を開催しました。本多正直教授（本学）より技法や作品完成までの工程について説明を受けたのち、参加者一人一人が自由に作品作りを行いました。最終日には、完成した作品一つ一つについて講評を行い、参加者全員で作品の仕上がりを楽しみました。



出張講座

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］地域共生研究センター

事業概要

本学の知を地域に還元することを目的に、本学の教員が公民館等の地域に赴いて講座を行う事業です。年度ごとに開講可能な講座一覧を各施設へ共有し、依頼先の希望に合わせて生涯学習講座、スキルアップ研修、コミュニティ内イベントなど様々な形式で講座を開講します。



連携先　県内公民館等

2025年度実績・成果　4月～翌3月の期間随時　＜参加者＞各回10～20名

- 8月4日（月）：前橋市中央公民館にて、謝志海教授による国際情勢関係講座を開催
- 8月5日（火）：前橋市南橘公民館にて、渡辺晃輔准教授によるアプリ開発講座を開催
- 8月27日（水）：前橋市第一コミュニティセンターにて、栗原美紀准教授によるヨガ講座を開催
- 2月8日（日）：前橋市清里公民館にて、大森昭生教授による男女共同参画社会に関する講座を開催
- 2月14日（土）：前橋市清里公民館にて、高田葉月音楽主任によるトーンチャイム講座を開催
- 2月15日（日）：前橋市清里公民館にて、佐藤高司教授による方言講座を開催

めぶく。プラットフォーム前橋

［カテゴリ］貢献・連携　［実施主体］大学

事業概要



人口減少化という社会構造の変化を背景に、「地域人材の育成・定着」を主軸に、若者の地元就学・就職、起業・事業承継、学びなおし（リカレント教育）など、地域の将来を支える人材をどのように育成し、定着させていくか、また、産業界、教育界、行政が共通して抱える喫緊の課題に対し 、互いの強みや経営資源を持ち寄りながら課題解決に取り組むことを本プラットフォームの目的としています。

連携先　前橋市/前橋商工会議所/前橋市内5大学（群馬大学、前橋工科大学、群馬県立県民健康科学大学、群馬医療福祉大学、本学、本学短期大学部）/群馬県専修学校各種学校連合会前橋支部

2025年度実績・成果	めぶくビジネススクール：10月18日（土）～2月7日（土）の全8回　<参加者>市内企業人 9名 合同FD・SD事業：11月8日（土）　<参加者> 一般参加者含む315名 奨学金返還支援制度説明会：7月22日（火）　＜参加企業＞ 49社（うち市内事業者等47社） 地域人材の育成・定着に係るアンケート：1月13日（火）～1月26日（月）学生向け 1月15日（木）～1月30日（金）企業向け

めぶくビジネススクール（MBS）では、市内企業の役員やマネジメント層を対象に、中央商店街のcommや各大学など複数拠点で実施し、受講生アンケートでは10段階評価で9.3という高い評価を得ました。また、合同FD・SD事業では、「迷いながらも生きていくと云うこと」をテーマに、古溪光大氏（雲門寺僧侶・起業家）を講師に迎え、群馬医療福祉大学の「昌賢祭」と同時開催しました。こうした人材育成の取り組みに加え、地域人材の育成・定着に向け、学生と企業を対象にアンケートを実施し、地元定着への意向やニーズ、企業側の意識などを把握しました。さらに、奨学金返還支援（代理返還）制度説明会では、地域への人材定着を目的に、企業向けに制度を説明するとともに、奨学金利用の実態や制度を利用する市内企業の声を紹介しました。

ぐんま未来イノベーション会議

［カテゴリ］連携　［実施主体］大学

事業概要



群馬県において産・学・官・金が互いに連携し官民共創コミュニティの実現を図り、地域力の向上、イノベーションの加速によって、地域社会及び経済を活性化させることを目的にしています。年１回、前橋商工会議所等を会場に、前橋商工会議所・群馬大学・前橋工科大学・共愛学園前橋国際大学が主催で開催しています。

連携先　前橋商工会議所／群馬大学／前橋工科大学／群馬県／前橋市／県内金融機関

2025年度実績・成果	11月24日（月）13：00～16：45　＜参加者＞全体約150名

2025年度は、「Maebashi発！AIを活用した地域活性化～AIの実装が、新価値を創造する～」をメインテーマに、前橋工科大学を会場として実施されました。本学はパネルディスカッションにて村山賢哉教授（本学国際社会学部長）がパネリストを務めました。「地方企業におけるAI活用事例」をテーマに、特別講演講師の中尾政之氏（元東京大学大学院号学系研究科 教授）、同じく特別講演講師のMartina Hansen氏（Hillbot社COO最高執行責任者）、福田尚久氏（日本通信株式会社 代表取締役社長兼CEO）、神保良弘氏（株式会社CATENAS 代表取締役）の4名とともに、企業へのAI導入の事例紹介や、会場からの質疑応答が行われました。

Back to the Earth　はだし歩きイベント

［カテゴリ］連携・貢献　　［実施主体］呉宣児教授（本学）・鈴木鉄忠客員教授（本学）・栗原美紀准教授（本学）

事業概要

スローシティ前橋の牧場や大型公園で市民を対象に自然健康法を紹介する「はだし歩き」イベントです。プログラムでは、まずレクチャーを通して、スローシティの理念やはだし歩きに関連する理論、はだし歩きしやすいまちづくりについての共通認識を形成します。その後、1時間程度はだし歩きを実践し、最後にヨガ体操を行い、心身を整えます。また、はだし歩きを体験するだけでなく、安全で綺麗な場所づくりを意識しながらごみ拾いも行います。このイベントを通して、個々人が日常生活の中でもはだし歩きを実践するようになることを目指しています。

連携先　スローシティ前橋マイマイの会／前橋南町公園金曜はだし歩き会／みんなdeマルシェ実行委員会（VIのみ）

2025年度実績・成果	V：5月24日（土）、VI：11月6日（木）　＜参加者＞一般6～26名、学生含むスタッフ約10名

春に開催されたBack to the Earth Vは、本学教員の主催イベントであり、秋に開催されたBack to the Earth VIは、「みんなdeマルシェ」という地域イベントの一プログラムとして実施されました。第5回目からは、のぼりの製作、学生によるごみ拾い活動、イベント後に昼食を共にする一般市民と学生の交流もあり、大きな成果でした。第6回目の秋の開催は、「みんなdeマルシェ」会場に参加した方々への宣伝活動の効果がありました。

参加者からは、「裸足歩きで活力が出て元気に過ごせる」「地面に直接触れることで、自分が普段いかに地面から隔てられていたかを感じた」「砂利道も思ったより痛くなくて楽しかった」と、様々な声が寄せられました。





ギフテッド教育公開シンポジウム

［カテゴリ］連携・貢献　　［実施主体］大学

事業概要

本公開シンポジウムは、群馬県教育委員会との連携のもと、日本国内においてまだ知見の薄いギフテッド教育について地域社会へ広く啓発し、「すべての子どもの個別最適な学び支援の在り方」を多角的に考えることを目的としています。国内外の専門知識を有する機関と連携し、多様な学習ニーズを持つ子どもたちを誰一人取り残さない教育環境の実現や、地域における指導法の普及を目指しています。

連携先　共催：群馬県教育委員会／パデュー大学ギフテッド教育研究センター
協賛：米日財団（USJF）／パデュー大学教育学部

2025年度実績・成果	2月22日（日）　＜参加者＞来場者61名（保護者21名、教育関係者15名、企業・NPO等10名、大学生5名、大学研究者３名、その他7名）

米パデュー大学のKristen Seward先生、愛媛大学の隅田学先生を招聘し、第2回ギフテッド教育シンポジウムを開催しました。群馬県教育委員会の教員研修も兼ねていた第1回とは異なり、2回目は完全な一般公開形式として実施しました。地域の保護者ポータルサイト等へも広く周知した結果、参加者全体の約3割を保護者が占め、教育関係者のみならず当事者家族の切実なニーズに直接応える場となりました。講演後にはディスカッションも活発に行われ、ギフテッド教育への社会的関心の高さを示すとともに、地域に根差した双方向の新たな支援ネットワークを構築する重要な成果を上げました。



教員一覧（全学教育推進機構・国際社会学部）

2026年4月現在

本学には、幅広い分野・フィールドで教育・研究を行う教員が在籍しています。これからも「地学一体」な大学として、それぞれの専門分野を活かし、地域社会の皆様と密に連携しながら、持続可能で活力ある地域づくりや地域社会の未来を切り開く人材の育成に取り組んでまいります。

全学教育推進機構		
名前	職位	研究分野
竹内 愛	機構長　教授	比較教育学、英語教育、異文化理解教育、異文化間コミュニケーション
大森 昭生	学長　教授	アメリカ文学、男女共同参画論
西舘 崇	国際社会学部長　教授	国際関係論、国際協力
丸橋 覚	学長特命補佐　教授	数学教育・教育課程・指導法の開発、教育行政・管理職研修・教員研修・育成、学校経営・教育経営、小中高大接続、産官学連携、非認知能力の育成
張 渭涛	准教授	中国語学、日本中国語検定とHSK受験、中国文学、中国の歴史文化と現代社会、台湾の歴史と社会、日中禅宗美学の比較
児浦 良裕	准教授	教育デザイン論、地域連携型教育、地域コミュニティ振興論
黒澤 絵美	助手	

国際社会学部		
英語コミュニケーションコース		
名前	職位	研究分野
篠原 美登里	コース長　教授	コミュニケーション、社会言語学、交渉学、英語教育
小林 恵美	教授	教育言語学、英語教育学、言語教師研究、言語エスノグラフィー
園田 敦子	准教授	外国語教育
ラーソン・ジョン	准教授	English Literature、Literature in Language Learning、Corpus Linguistics、English as a Second/Foreign Language Education
エメット・ダグラス	専任講師	第二言語教育におけるテクノロジー活用、CALL（コンピュータ支援言語学習）、形成的フィードバック、真正の評価、ゲームベース学習 (GBL)、インストラクショナルデザイン、第二言語自己像
国際コース		
名前	職位	研究分野
栗原 美紀	コース長　准教授	社会学
呉 宣児	教授	環境心理学 、文化発達心理学、教育心理学、原風景・場所への愛着、多文化共生
謝 志海	学長補佐　教授	国際関係学、国際政治学
丹羽 充	准教授	文化人類学、南アジア地域研究、宗教学
山手 昌樹	准教授	ヨーロッパ史
情報・経営コース		
名前	職位	研究分野
神宮 貴子	コース長　准教授	経営工学
兼本 雅章	教授	公共経済、アントレプレナーシップ教育
杉沢 一美	教授	金融教育、経済教育
曺 圭啊	専任講師	経営学、国際経営、イノベーション
心理・人間文化コース		
名前	職位	研究分野
奥田 雄一郎	コース長　教授	心理学
古澤 健太郎	准教授	歴史神学
西川 正也	副学長　教授	文学一般、中国文学、ヨーロッパ文学
松本 学	学長補佐　教授	臨床発達心理学、見た目の違い（Visible Difference）
野口 華世	教授	日本史、日本中世史、地域史
唐 音啓	専任講師	人格心理学、学校臨床心理学
学校教育コース		
名前	職位	研究分野
桂 聖	コース長　准教授	国語科教育、教師教育
後藤 さゆり	副学長　教授	教科教育学・初等中等教育学、教育学、家政学・生活科学
本多 正直	教授	美術教育、彫刻制作、石彫刻、テラコッタ彫刻、ICT美術教材、方言かるた
張 信愛	准教授	学校経営、教育経営、教育制度、教師教育
八桁 由布樹	准教授	音楽科教育学、外国につながる子どもの教育、多文化共生教育、民族音楽学
幼児教育・保育コース		
名前	職位	研究分野
天宮 陽子	コース長　教授	生活科学、家政哲学、幼児教育学、児童文化財研究
上原 篤彦	教授	障害児保育、特別支援教育
永井 広子	教授	幼児教育
篠塚 晃子	准教授	ピアノ、音楽教育

教員一覧（デジタル共創学部）

2026年4月現在

デジタル共創学部		
名前	職位	研究分野
村山 賢哉	デジタル共創学部長　教授	商学・経営学、人的資源管理論、組織論、情報管理論
上原 宏	教授	AI・機械学習、自然言語処理、フードデータサイエンス
梅嶋 真樹	教授	セキュリティ(サイバーフィジカルシステム)、経営情報システム、分散エネルギーシステム、新規事業開発、国際コミュニケーション、産学官連携
小柏 伸夫	教授	情報科学、インターネット関連技術
國領 二郎	副学長　教授	経営情報システム、情報社会、経営戦略論、ビジネスアーキテクチャ
田所 淳	教授	メディアアート、コンピュタミュージック、ライブコーディング
永井 真紀	教授	ライフサイエンス、健康・スポーツ科学、社会医学、健康支援モデル構築
木村 祐美	准教授	食物アレルギー、食品の機能性、エコ・クッキング、知的障碍児・者の食育
渡辺 晃輔	准教授	情報技術、地理空間情報、ビッグデータ分析、エンジニアリング
小松 稔	講師	信号処理
三浦 佳奈	講師	生命科学、分子生物学、食品科学、科学技術コミュニケーション

本学HPより、詳しい情報をご覧いただけます▶

学校法人共愛学園　共愛学園前橋国際大学

Kyoai Gakuen University

地域連携・社会貢献白書　2025

2026年12月発行

〒379-2192　群馬県前橋市小屋原町1154-4

Tel： 027-266-7575（代）

027-266-9060（本書に関するお問い合わせ）